
ねこの思い出7 「絶対にわざとやっている」

西宮尚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねこの思い出7「絶対にわざとやっている」

【コード】

N5840D

【作者名】

西宮尚

【あらすじ】

18歳8ヶ月で逝ってしまったねこの思い出をつづります。このねこには、絶対にわざとやっている、人への嫌がらせがありました。

(前書き)

18歳8ヶ月で逝ってしまったたねこの思い出をつづります。
そのねこは、最高にかわいい容姿と最悪な性格をしていました。

ねこが絶対にわざとやっていることがある。

新聞を読むと必ずその上になる。

ものの本によると、猫は親である人間のまねをする。そのため、人間の読んでいる新聞を読むために、その新聞にのっってしまうというでも、うちのねこの場合は違うと思う。

なぜなら、うちのねこは、その新聞の上で丸くなるのだから…

私が読んでいる記事の上ののっかって、そのままボタンと横になる。そこで、毛づくろいを始めたりもする。

これは、ただ単に、私が新聞を読むのをじゃましているに過ぎない。

テレビを見ていると、絶対にテレビ画面にしっぽをたらず。

家族が夢中になってみている時に限って、テレビの上に乗って後ろを向き、長くしなやかなしっぽを画面の前でフリフリと動かす。

関心が自分に無いことに抗議するかのようだ。

これに対しては、家族も、ブラウン管テレビが古くなった時に、薄型テレビに買い換えることで対応した。

でも、その後、ねこは、しっぽをピンと立てて、テレビ画面の前をうろろろするようになった。

絶対にテレビを見るのをじゃましている。

しっぽについては、もう一つある。

ねこが、人間の食事をもらえない時にそれが起こる。

たいてい、うちの家族は、ねこの食べられるもの、さしみとか焼き魚とか蟹があると、自分のご飯を食べつつ、そのおかずをねこに分ける。

ねこが食べないものの時は、ねこは匂いを嗅いで、人のひざの上に

のって、それを見定める。食べられないとわかると、ねこは興味なさそうに、その場を去っていく。

でも、そのおかずが、ねこが興味を持っているのに分けられないものがある。

消化に悪いイカとか、たまねぎの入っているハンバーグとか。

そのような時、ねこは、長いしっぽをテーブルの上のせてパタパタと動かすのだ。

しっぽをテーブル上にのせて、ひとフリする時もある。

そして、おかずの汁をしっぽに付ける。

その後、しっぽをなめて、おかずの味見をしているようだ。

しかし、そのしっぽがおかずの上ばかりに行くのではない。ごはんの上のる時もあるのだ…

そのような時は、ごはんは毛だらけになる…　そして、しっぽは「はんだらけになる…」

ねこは、ゲロをするのもわざとやっていることがある。

私が泊りがけの旅行に行く時は、必ず、私の部屋にゲロをする。

それ以外のゲロも、絶対に、人が歩く場所に出すのだ。

おかげで、うちの家族は、かなりの確率でねこゲロを踏んでいた…

ねこがため息をつく時。

ものの本によると、それは何の意味のない行為であると言っている。

私はねこの毛の匂いを嗅ぐのが好きだ。

それも、日向ぼっこをしてお日様の匂いがするねこの毛を、思いっきり吸い込む。

でも、そのようにねこの毛の匂いを嗅ぐと、ねこは「フー」っと、鼻で大きくため息をつく。

いつ、いかなる時でも、毛の匂いを嗅ぐとため息をつくので、これは絶対にわざとやっていると思う。

ねこのおならはくさい。それは肉食のせいだろう。
一緒に寝ている時、ねこが寝ている方向を変える時がある。
でも、そのような時に、なぜか、おしりを私の顔近くに持ってくる
時は、必ず「プー」と、おならをする。
顔をしかめる私を見て楽しんでるようだ。

これらは、ねこは絶対にわざをやっていた。

・ (n . n) ・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5840d/>

ねこの思い出7「絶対にわざとやっている」

2011年10月4日00時01分発行